

2月17日（金）2階D室 9：00～9：40

1 単元名 どうあらわそうか

2 単元について

単元目標	○話し手は聴き手を意識して発表する。聴き手は伝えたいことを考えながら聴き、応答する。 ○発表者の伝えたいことを意識しながら共同推敲し、よりよいことばや表現を考える。
------	---------------------------------------------------------------------------------------

2年生は、1年生からサークル対話を行っている（課題別部会「低学年教育部会」参照）。サークル対話では、発表者は生活の中で見つけたことや感じたこと、興味をもったことなどを話し、発表後は質問をしたり、発表と関連した聴き手の経験が話されたりしている。全員の発表が終わると、発表を振り返りながらお気に入りの発表をえらび、その内容を板書して全員で推敲を行っている（共同推敲）。そして子どもたちは皆で推敲して作りあげた文章をノートに視写し、家庭で音読をする。

1学期当初は、まだ「昨日、家族でレストランに行きました。何か質問はありますか。」といった発表もあったが、そうした発表だとお気に入りの題材としてえらばれない。そうした経験をしていくうち、4月末頃には話される内容の量と質が高まってきた。昨年度の1年生でもそうだったが、「自分が語ったことが、文として残る」ことが、書くことや書く内容の充実への動機になっている。もちろん、尻込みをする子もいるが、ひたすら発表するのを待っていると、ある日、はっとする文章を書いてくる。

えらばれる題材にも、傾向が見られるように思う。1学期に特に多かったのは、ものを持ち込んでの発表である。家で工作を作った話なら、作ったものが目の前にあると聴き手はイメージがしやすい。それだけでなく、持ち込まれたものに対するエピソードや思い入れが伝わる話だと聴き手も共感し、お気に入りの入りになる。また、どこかに出かけた話よりも、ごく日常、学校や家庭でのエピソードの方がイメージしやすいためか、発表者に寄り添うように受けとめることができ、題材としてえらばれる傾向がある。

共同推敲は、昨年度の実践を振り返り、①漢字やひらがなの表記②文章の句読点③文章の表し方の順で進めている。この進め方で、少しずつ文を深く読み込めるようにできると考えている。また、板書量も内容や文章の質によって調整して進めている。特に、②句読点を考えることを通して、意味を考えながら読点を考えるようになり、それが意味で段落を捉える力を育て、段落構成を考える学習にもつながっている。共同推敲の最後は、題名を考えている。これは、話し手が一番伝えたいことが何か、話の中心をつかむことが大切である。題名を考えることで、自然と話の中心を意識できるようになっている。

最近では、句読点を考える前に文章の修正点に気付くようになってきており、授業の進め方を少し悩んでいる。また、ことばを別のことばに置き換える、文章を言い換えることもできるようになってきている。これらが過去の共同推敲で学んだことを生かしたものであることも、「○○くんが発表した時にやっただけだ…」と言った発言から見てとれる。子どもたちは過去の発表や共同推敲をよく憶えていて、エピソード記憶として発表と学びが紐づいている。こうした活動を通して、子どもたちは語られることばや表現が豊かになってくるとともに、サークル対話が学びになっているという有用感ももっている。

3 学習指導計画（14時間目／帯単元 3学期20時間） ※毎時間の流れ

- (1) 自分で発表する内容を考えておく。
- (2) 予約の順に6人くらいを目安に、1人5分位発表をする。発表後、質問や感想を交流する。
- (3) 6人終わったら1つ発表を選び、共同推敲をする。

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

発表者の伝えたいことを意識しながら、よりよいことばや表現を考える。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 サークル対話で発表を聴きあう	○教師も子どもも発表を楽しむ。 ・話し手の伝えたいことに寄り添いながら聴き、応答できるように配慮する。 ・子どものことばがとがったものにならないよう気を配る。 ・必要に応じて、分からないことばなどの支援をする。
2 発表から題材を1つ選ぶ	○発表の内容を振り返り、題材をえらぶ。
3 選ばれた発表を共同推敲する	○発表者の表したいことに寄り添うことを大切にして推敲する。 ・推敲するポイントを整理しながら進める。
4 推敲した文章を視写する	○推敲した文章を丁寧に書くことと文章にあう絵を添えて、ノートに視写する。